

JGC

2025年3月期 第3四半期

9 M FY2024

決算概要



Enhancing planetary health

2025年2月12日

日揮ホールディングス株式会社

本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

執行役員ファイナンスユニット部長の田口です。
2025年3月期第3四半期の決算概要をご説明させていただきます。

目次

- 2025年3月期 第3四半期 実績
- 2024年度 予想
- 参考資料



最初に2025年3月期第3四半期の実績、次に2024年度の通期業績予想についてご説明いたします。



最初に2025年3月期第3四半期の実績です。

ハイライト

- インドネシアの大型案件受注（第4四半期計上予定）により受注高は目標に向けて進捗
- 通期業績予想を下方修正
 - ✓ 台湾LNGターミナル：一部建設用地の引渡し遅延
 - ✓ サウジアラビア2案件：サブコントラクターの財務的困難
 - ✓ カナダLNG：建設工事作業員の追加動員
 - ✓ 新規プロジェクトの受注時期遅れに伴う不稼働費用負担

第3四半期のハイライトです。

受注は、12月にインドネシアでタングーEGR/CCUSプロジェクトの陸上設備EPCI契約を受注したことで、今年度目標に対して足下で80%程度まで進捗が伸びました。

一方業績面では、追加費用計上があり、残念ながら通期予想を下方修正することになりました。

主な要因はここにお示した通りです。

台湾LNGターミナル案件では、一部建設用地が顧客から引き渡されない問題があり、これまでの状況からその解消時期を見直さざるを得ず、そのため大幅なスケジュールの延長に伴う追加費用を計上いたしました。

サウジアラビアでは、現地で起用しているサブコントラクターの財政状況悪化により給与遅配やストライキが発生しました。そのため、同国で遂行中の2つのプロジェクトにおいてサブコントラクターのスコープ見直しや

入れ替えなど計画変更、リスク対応のための予算を追加計上いたしました。

カナダのLNGプロジェクトは、建設工事が最終段階を迎え、完工に向けて作業を促進するため熟練工の追加動員を行っており、そのため建設工事費用が増加しました。これを受けて今期計上を見込んでいた利益額が

減少いたしました。

最後に、国内を中心に新規プロジェクトの最終投資決定時期が大きく遅れており、エンジニアの稼働率が期初想定に比べて低下しております。そのため、計画値に比べて差損が生じています。

これらの減益要因は第3四半期に反映するとともに、そのベースで通期業績予想を見直した結果、下方修正をすることとなりました。

連結損益計算書

【億円】

	9M FY2023	9M FY2024	前年同期比	
売上高	6,010	6,041	+30	+1%
売上総利益	323	31	△ 291	△ 90%
利益率	5.4%	0.5%	△ 4.9pt	
営業利益・損失	92	△ 192	△ 284	△ 307%
経常利益	233	1	△ 231	△ 99%
親会社株主に帰属する 四半期純利益・純損失	106	△ 39	△ 145	△ 137%
1株当たり四半期純利益・純損失	44.08円	△ 16.43円		

第3四半期累計実績の連結損益計算書です。
 売上高は前年同期比横ばいの6,041億円
 売上総利益は90%減益の31億円でした。
 営業損失▲192億円
 経常利益は営業外収益により1億円のプラス
 親会社株主に帰属する四半期純損失▲39億円となりました。

セグメント情報

		【億円】			
		9M FY2023	9M FY2024	前年同期比	
総合エンジニアリング	売上高	5,614	5,613	△ 0	△ 0%
	セグメント利益・損失	86	△ 198	△ 285	△ 329%
	利益率	1.5%	△ 3.5%	△ 5.0pt	
機能材製造	売上高	367	397	+29	+8%
	セグメント利益	54	58	+3	+7%
	利益率	14.9%	14.7%	△ 0.2pt	
その他	売上高	28	29	+1	+4%
	セグメント利益	7	7	+1	+2%
	利益率	27.1%	26.6%	△ 0.5pt	
調整額	セグメント利益・損失	△ 56	△ 59	△ 3	-

第3四半期のセグメント情報です。

総合エンジニアリング事業は、売上高は5,613億円と前年同期比横ばいでした。セグメント損失は▲198億円となりました。

損失となったのは、台湾LNGターミナル案件での予算見直しに伴う損失引当、サウジアラビア2案件のサブコントラクター対応、カナダLNG案件の予算見直しによる過年度計上利益の戻し、稼働率低下による原価差損計上などが主な理由です。

昨年度損失引当を行ったその他のプロジェクトは、期初予算の範囲内で進捗しています。また、人材リソースマネジメントの強化や海外グループ会社の戦略見直しといった対応策を着実に進めています。

機能材製造事業は増収増益となりました。

売上高397億円、セグメント利益58億円です。

主にファインケミカル製品、ファインセラミックス製品が回復しています。

その他、調整額は御覧の通りです。

セグメント情報

マーケット環境

・総合エンジニアリング事業

天然ガス（LNG含む）やサステナブル分野を中心に顧客の設備投資計画は多数存在。一方で、金利上昇やインフレによって顧客の初期投資額は上昇傾向にあり、顧客は引き続き投資決定に慎重。

・機能材製造事業

触媒分野は、燃料需要の増加などを背景にFCC触媒を中心に国内外で概ね堅調に推移（一部製品で期ズレ）。

ファインケミカル分野は、電子材や半導体関連市場が回復傾向。

ファインセラミックス分野は、半導体製造装置市場が復調していることに加え、EV向け高熱伝導窒化ケイ素基板の需要も引き続き旺盛。

マーケット環境です。

総合エンジニアリング事業は、引き続き数多くの設備投資計画の検討が進んでいます。その一方でコストの上昇などの理由から検討期間が長期化するなど、顧客の投資決定には依然慎重な姿勢が見られます。

機能材製造事業はファインケミカル、ファインセラミックス分野が回復傾向にあります。

セグメント情報

受注の状況（総合エンジニアリング事業）

i) 受注高

【億円】

	9M FY2023	9M FY2024
海外	1,044	3,599
国内	1,425	565
合計	2,469	4,165

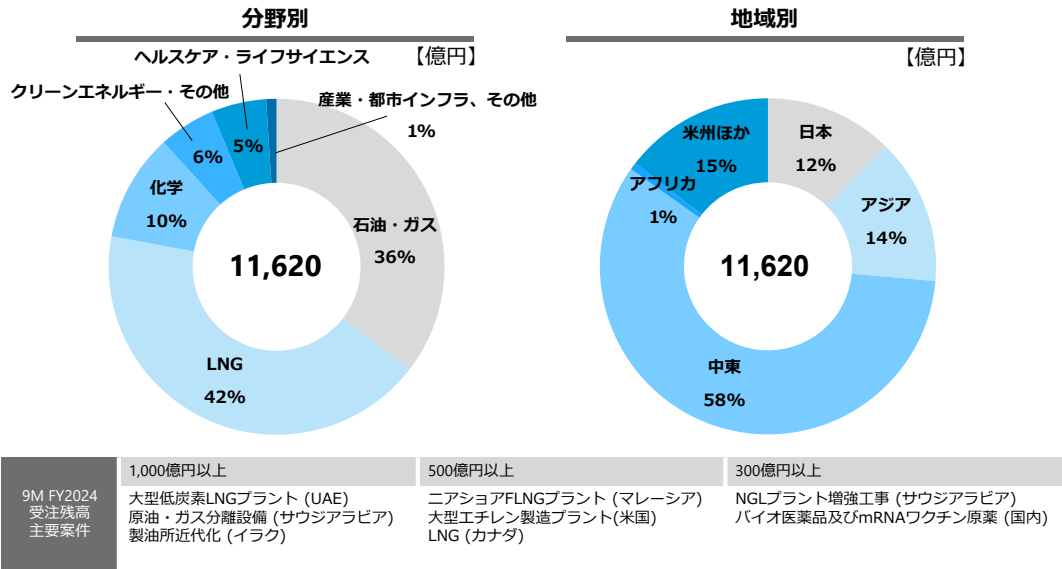
9M FY2024
主要受注案件

大型低炭素LNGプラント(UAE)

総合エンジニアリング事業の受注の状況です。
第3四半期累計期間の受注高は4,165億円でした。
第3四半期3か月間は、海外では遂行中案件のチェンジオーダー、国内ではメンテナンス関係などの案件を受注しました。
12月に受注したインドネシアのタンゲーEGR/CCUSプロジェクトは第4四半期に計上のため、その金額はまだ含まれていません。

セグメント情報

ii) 受注残高 (2024年12月末)



受注残高です。
 受注残高は1兆1,620億円でした。
 分野別ではLNGが42%、石油・ガスが36%、地域別では中東が58%となっています。

連結財政状態

	2024年3月末	2024年12月末	増減
流動資産	6,035	5,725	△ 310
固定資産	1,887	2,038	+151
総資産	7,922	7,763	△ 159
流動負債	3,507	3,516	+9
固定負債	536	448	△ 88
純資産	3,878	3,798	△ 79
自己資本比率	48.7%	48.7%	△ 0.0pt
JVキャッシュ 当社持分	1,481	1,054	△ 426

連結財政状態です。
総資産は期初から159億円減少し7,763億円
純資産は79億円減少し3,798億円
自己資本比率は48.7%と期初並みでした。

2024年度 予想

Enhancing planetary health

次に、2024年度の通期の業績見通しについてご説明いたします。

2024年度の業績見通し

【億円】

	FY2023 実績	修正前	修正後	増減	
受注高(※1)	2,938	9,700	9,700	-	-
売上高	8,325	8,300	8,300	-	-
売上総利益	106	580	170	△ 410	△ 71%
利益率	1.3%	7.0%	2.0%	△ 5.0pt	
営業利益・損失	△ 189	260	△ 140	△ 400	△ 154%
経常利益	3	340	60	△ 280	△ 82%
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失	△ 78	230	△ 40	△ 270	△ 117%
1株当たり配当金	40.0円	40.0円	40.0円	-	
換算レート(米ドル)	151.41円	145.00円	150.00円(※2)	+5円	

(※1)総合エンジニアリング事業

(※2)第4四半期の想定レート

今回通期業績予想を修正いたしました。

売上総利益が410億円減の170億円

販管費の節減10億円を考慮し営業利益は400億円減の損失▲140億円です。

経常利益は受取利息の増加や為替差損益を見直し280億円減の60億円

親会社株主に帰属する当期純利益は270億円減少して損失▲40億円です。

第4四半期の為替レート想定は1ドル150円で見えています。

1株当たり配当金は40円に変更ありません。

2024年度 セグメント別 業績見通し

【億円】

	FY2023 実績	修正前	修正後	増減	
総合エンジニアリング	売上高	7,731	7,700	7,680	△ 20 △ 0%
	セグメント利益・損失	△ 220	260	△ 160	△ 420 △ 162%
	利益率	△ 2.9%	3.4%	△ 2.1%	△ 5.5pt
機能材製造	売上高	520	520	540	+20 +4%
	セグメント利益	72	70	80	+10 +14%
	利益率	13.9%	13.5%	14.8%	+1.3pt
その他	売上高	74	80	80	- -
	セグメント利益	20	20	20	- -
	利益率	26.9%	25.0%	25.0%	-
調整額	セグメント利益・損失	△ 61	△ 90	△ 80	+10 -

セグメント別の業績見通しです。

総合エンジニアリング事業でセグメント利益が420億円減少し損失▲160億円を見込みます。

台湾LNGターミナル案件での新たな損失引当、サウジアラビア案件の損失引当の追加、LNGカナダで追加費用を見込んだことによる想定利益計上額の減少、原価差損計上といったマイナス要因を織り込みました。

機能材製造事業は第3四半期までの進捗状況を踏まえ、上方修正しています。

以上で決算概要の説明を終わります。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com